

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
音楽 Music		児童教育学科 初等教育学専攻	1年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	2	必修	山崎 凱千	
概要				
<p>小学校の先生として児童の音楽的感性と表現力を育てていくためには、先生自身の音楽的な知識と基礎能力が必要である。そのために、ここでは音楽理論と歌唱の基礎、リズム奏の基礎・基本を習得し、音楽的感性と音楽的技術を養う。</p> <p>グループ演習をとおしてアンサンブルをする体験を習得する。</p>				
到達目標				
<p>(1) 基本的な音楽理論（楽典）の習得ができる。</p> <p>(2) 器楽演奏や歌唱の基本を学び、その基礎力の体得ができる。</p> <p>(3) 音楽における基礎能力の感性を助長し、技能を向上させることができる。</p>				
授業内容とすすめ方				
【前期】 1 講義の全体目標及び概要説明 2 音の長さ・音符と休符について 3 音の高さ・音名と階名 4 音の強さ・音の色・味わいの考察 5 音楽用語と各種記号の意味するところ 6 リズムと速度、リズムと拍子について 7 ソルフェージュ・聴音 8 リズムの変化、反復、終止感 9 曲想、アンサンブル —グループ演習— 10 指揮の仕方、指揮者の役割 11 ハ長調の音階とイ短調の音階 12 アンサンブルと指揮者の務め 13 音楽の歴史の概要をつかむ 14 形式美・鑑賞教材のとらまえ方 15 移調・転調、楽典総論		【後期】 1 ハ長調の主要三和音 I・IV・V の和音 2 コードネームについて 3 ヘ長調の主要三和音 I・IV・V の和音 4 ト長調の主要三和音 I・IV・V の和音 5 メジャーコード・マイナーコード 6 イ短調の主要三和音 I・IV・V の和音 7 セブンのコード C7, F7, G7, D7, E7 8 コードによる平易な伴奏 9 ハ長調→ト調、ハ長調→ヘ調への移調奏 10 旋律を歌い、コードによる伴奏をつける 11 コードのみの伴奏で旋律を歌う 12 弾き歌いを人前で発表する 13 和音の教え方 アクティブランニング 14 グループによるALの成果発表 15 コードを使って即興演奏に挑戦		
テキストおよび 参 考 文 献	音楽（山口短期大学） 初等科音楽教育法・小学校教員養成課程用（音楽之友社） 小学校学習指導要領 第6節 音楽			
メ ッ セ ー ジ な	義務教育で学んだ音楽知識を体系化し、さらに楽典を総括的に学びましょう。 演習の楽しさを体験し、将来の活動に生かせる素地を造りましょう。 能力にあった器楽伴奏法を習得し、楽しく児童をリードする力を養いましょう。			

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 基本的な音楽理論（楽典）の習得ができる。	音楽の三要素（旋律・リズム・和音）を記号化した楽典を全体的にほぼ完璧に理解し活用できる。	理論として理解でき、活用の段階で実用できる程度に習得できる。	ほぼ理解でき、実用実践の段階で混乱せずに活用できる理論が習得できる。	合理性に富む楽典理論が理解習得できていない。	定期試験（楽典）	50%
(2) 器楽演奏や歌唱の基本を学び、その基礎力の体得ができる。	鍵盤楽器を中心として、弾き歌いの技量など、ほぼ完璧に出来る	器楽と歌唱の別々でなら、ほぼ完璧に表現できる。	基本的、基礎的な演奏力がほぼ身に着いている。	基礎的、基本的技量が全く身に着かない。	実技検査（鍵盤楽器）	30%
(3) 音楽における基礎能力の感性を助長し、技能を向上させることができる。	自らの力で自らの感性を磨く練習ができ、技能の向上に努めることができる。	楽譜等の指示に従ってほぼ完璧に表現でき、感性を助長させることができる。	楽譜等の指示に従ってほぼ正確に表現できるが、感性を助長させるまでには至らない。	楽譜等の指示に従って正確に表現できない。技能の向上がみられない	定期試験 実技検査	20%